

第2回 春日山原始林保全計画検討委員会 議事要旨

日時 : 平成25年4月26日(金) 午後1時00分～3時00分

場所 : 奈良県文化会館 2階 集会室A・B

出席者 : 委員長 吉田 博宣

委員 川瀬 浩、佐野 純子、田中 和博、前迫 ゆり、松井 淳、
宮城 俊作、山倉 拓夫

オブザーバー 文化庁記念物課 本間調査官

事務局 奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局奈良公園室

関係部局 《奈良県》風致景観課、森林整備課、奈良土木事務所、
奈良公園管理事務所、文化財保存課

《関係機関》春日大社、林野庁奈良森林管理事務所、
奈良市景観課、奈良市文化財課

議題 ①春日山原始林保全の基本的な考え方と保全方策（案）について

②実証実験計画（案）と緊急を要する保全方策について

③その他

議事要旨

○春日山原始林保全の基本的な考え方と保全方策（案）について

- ・モニタリング調査、外来樹種の駆除など、継続的な保全対策を実施するための執行体制を確立していきたい。その際に、パークマネジメントという観点も参考にすべきである。
- ・植生保護柵の設置を県事業として、長期的にどのように位置づけて実施していくのか明確にしておくべきである。

○実証実験計画（案）と緊急を要する保全方策について

- ・植生保護柵設置により春日山原始林全域を保全するためには、どの程度の設置面積が必要なのか、目標面積を本検討委員会で議論したい。
- ・春日山原始林は、地形毎に多様な特徴をもった森林である。春日山原始林全域を一様に評価するのではなく、立地特性と森林タイプに配慮し目標面積を検討すべきである。
- ・実証実験なので、立地特性に柔軟に対応できるよう型式や施工性についても検証する。
- ・原生的な自然環境において、除草剤による駆除は望ましくない。外来樹種の駆除は、伐採を基本に行うべきである。
- ・ナラ枯れ被害を予測し、母樹からの種子確保という手法も併せて検討する。

○まとめ

- ・植生保護柵の設置目標面積についての検討を行う。
- ・下層植生の保全も勘案し、植生保護柵設置のあり方を検討する。
- ・植生保護柵の型式には、実証実験という考え方で柔軟に検討し設置すべきである。
- ・外来樹種の駆除方法は、参画の方法も併せて検討すべきである。